

国際花火シンポジウムが日本で

国際花火シンポジウム (International Symposium on Fireworks) というものがあります。第1回は、1992年にカナダで開催されました。花火と言えば日本、とってしまいますが(私だけ?)、国際花火シンポジウムは、カナダの火薬研究所の呼びかけで始まりました。世界中の花火に携わる人たちが集まって、自分の活動や研究の発表、意見交換などを通して、花火業界のみんなで切磋琢磨しましょうというシンポジウムです。



国際花火シンポジウム公式ホームページ (<http://www.isfireworks.com/>)

- | | |
|--------------------------------------|--|
| (1) Montreal, Canada, 1992 | (9) Berlin, Germany, 2006 |
| (2) Vancouver, Canada, 1994 | (10) Montreal, 2007 (the 10th anniversary) |
| (3) Walt Disney World, Orlando, 1996 | (11) Puerto Vallarta, Mexico, 2009 |
| (4) Halifax, Canada, 1998 | (12) Porto/Gaia, Portugal, 2010 |
| (5) Naples, Italy, 2000 | (13) Malta, 2012 |
| (6) Walt Disney World, Orlando, 2001 | (14) Changsha, China, 2013 |
| (7) Valencia, Spain, 2003 | (15) Bordeaux, France, 2015 |
| (8) Shiga, Japan, 2005 | |

これまでの国際花火シンポジウム

2017年4月、第16回のシンポジウムが、日本の秋田県大仙市で開催されます。せっかくなので、この集まりに参加させていただいて、私の16年間の「花火×化学」の活動を紹介させていただき、世界中の方たちからご意見などをいただけたら嬉しいなと思って、研究発表に応募することにしました。そうと決めてから、第16回のメインテーマが“Fireworks as an Educational Resource.”（教育資源としての花火）という情報が入り、勝手にますます「私って今回のテーマにぴったりかも！」と嬉しくなっていたわけです。同じような活動をしている世界の実践例も聞けますし、ね。

発表者数には限りがあるということで、アブストラクト（発表概要）を提出したあとに審査がありました。その審査結果がつい先日出まして、私にも発表のチャンスをいただけることになりました。嬉しい！そして、もしかしたら、サイエンスショー「花火の化学」もさせていただけるかも（まだ決まっていませんので、ここだけのはなし）。

16年をふりかえってみました



「花火×化学」2016を終えたあと、いろいろ集計をしてみました。花火のサイエンスショーは、2000年に企画・制作して初めて公開して以来、リバイバル3シーズン、1215回演示して、合計100,005人のお客様にこのサイエンスショーを見ていただいたことがわかりました（エキストラ実験ショーやイベントでの演示は含まず）。また、2015年7月に発行したミニブック「花

火の化学」。2016年6月から8月までの3ヶ月間では1588冊を買っていただきました（全商品における販売個数の16.64%）。

お家でも、花火の化学をネタに、お喋りが盛り上がっているでしょうか？そんな光景を（勝手に）想像して、喜んでます。花火の化学を知っていると、花火が2倍、楽しめるようになるかも…と信じて、これまで16年間、いろいろな企画をしてきました。実際、何が、どのくらい楽しめるようになったか、10万人の方からご感想をいただけると、嬉しいです。

花火の楽しみ方の新しい文化を作っていけたら…、

が私の目標なのですが、その文化を広める10万人の新しい仲間ができたのかもと思うと、なんだか涙が出てきそうです、嬉しくて。

岳川 有紀子(科学館学芸員)

